

## 2022年11月13日 聖日礼拝

インターネットの礼拝映像配信は9時より。11時からは録画を視聴できます。

後	祝	頌	献	会衆賛美	説	聖書朗読	使徒信条	礼拝祈禱	交	主の祈り	会衆賛美	会衆賛美	前	11月13日
報告	栄	栄	金	聖歌629	教	出エジプト記			詩篇100篇1〜5節		神の国と神の義を(1回)	聖歌501(1, 2節)	奏	聖日礼拝
奏	聖歌376			(1, 2節)	幕屋の建設②	31章							イザヤ書60章2節	
感謝祈禱					荻野泰弘牧師	12								
						18								
						節								

「見よ、闇が地をおおっている。暗黒が諸国の民を。しかし、あなたの上には主が輝き、主の栄光があなたの上に見える。」アーメン

### ■聖歌501「たたえよ救い主イエスを」(1, 2節)

- ① たたえよ 救い主イエスを くすしき愛をば のべ  
あがめよ み使いと共に 尊き 主のみ名をば  
かよわき 我ら 羊を 飼い主イエスはいだく  
たたえよ たぐいなき みいつ たたえよ 声も高く
- ② たたえよ 人の罪ゆえに 十字架につきし君を  
君こそ とこしえの岩よ 変わらぬ 我が 望みよ  
心の病いことごと 癒され安き受けぬ  
たたえよ たぐいなき みいつ たたえよ 声も高く

### ■「神の国と神の義を」(1回)

神の国と神の義を まず求めなさい  
そうすればみな与えられる ハレル ハレルヤ

■主の祈り 天にましますわれらの父よ。ねがわくは 御名をあげめさせたまえ。御国をきたらせたまえ。御心の天になるごとく、地にもなさせたまえ。われらの日用の糧を今日もあたえたまえ。われらに罪をおかすものを われらが 赦すごとく、われらの罪をも赦したまえ。われらを ころみにあわせず 悪より救いいだしたまえ。国と力と栄えとは かぎりなく なんじのものなればなり。アーメン

■交読 詩篇100篇1～5節

- 1 全地よ 主に向かって喜びの声をあげよ。
- 2 喜びをもって主に仕えよ。  
喜び歌いつつ御前に来たれ。
- 3 知れ。主こそ神。  
主が 私たちを造られた。  
私たちは主のもの 主の民 その牧場の羊。
- 4 感謝しつつ 主の門に  
賛美しつつ その大庭（おおにわ）に入れ。  
主に感謝し 御名をほめたたえよ。
- 5 主はいつくしみ深く  
その恵みはとこしえまで  
その真実は代々（よよ）に至る。

■使徒信条 われは天地のつくりぬし、全能の父なる神を信ず。われはそのひとりご、われらの主、イエス・キリストを信ず。主は聖霊によりてやどり、おとめマリヤよりうまれ、ポンテオ・ピラトのもとにくるしみをうけ、十字架につけられ、死にてほうむられ、よみにくだり、三日目に死人のうちよりよみがえり、天にのぼり、全能の父なる神の右に座したまえり。かしこよりきたりて 生けるものと死にたるものとを さばきたまわん。われは聖霊を信ず。聖なる公同の教会、聖徒のまじわり、罪のゆるし、からだのよみがえり、とこしえのいのちを信ず。アーメン

## ■聖書朗読 出エジプト記 3 1 章 1 2 ～ 1 8 節

12 主はモーセに告げられた。

13 「あなたはイスラエルの子らに告げよ。あなたがたは、必ずわたしの安息を守らなければならない。これは、代々にわたり、わたしとあなたがたとの間のしるしである。わたしが主であり、あなたがたを聖別する者であることを、あなたがたが知るためである。

14 あなたがたは、この安息を守らなければならない。これは、あなたがたにとって聖なるものだからである。これを汚す者は必ず殺されなければならない。この安息中に仕事をする者はだれでも、自分の民の間から断ち切られる。

15 六日間は仕事をする。しかし、七日目は主の聖なる全き安息である。安息日に仕事をする者は、だれでも必ず殺されなければならない。

16 イスラエルの子らはこの安息を守り、永遠の契約として、代々にわたり、この安息を守らなければならない。

17 これは永遠に、わたしとイスラエルの子らとの間のしるしである。それは主が六日間で天と地を造り、七日目にやめて、休息したからである。」

18 こうして主は、シナイ山でモーセと語り終えたとき、さとしの板を二枚、すなわち神の指で書き記された石の板をモーセにお授けになった。

## ■聖歌 6 2 9 「恐れなく近よれと」(1, 2 節)

①「おそれなく ちかよれ」と 主は語りたもう  
信仰の手 のぼしつつ 近づきまつらん

※いよいよ ながそばに われを引きよせ  
いよいよ 主よ なが愛の 広さ 知らせよ

②この身をば 奉仕へと 今 ささぐれば  
君が むね ひとすじに なさしめたまえ

## ■頌栄 聖歌 3 7 6 「父 御子 御霊の」

父・御子・みたまの おおみかみに とこしえかわらず  
御栄えあれ 御栄えあれ アーメン